

社告

第58回中日文化賞決まる

第五十八回中日文化賞の受賞者が決まりました。各界から推薦された五十四件の個人、団体について、専門家らの意見を参考に選考を重ねた結果、左記の五氏としました。この賞は中日新聞社が各分野で文化の向上に寄与された方々に贈っています。贈呈式は三十一日に名古屋市中区栄の中日ビル内中日パレスで行い、正賞（腕時計）、副賞（二百万円）、賞状（杉本健吉氏デザイン）を贈ります。（敬称略・五十音順、業績は<4>面に）

現代中国研究と日中学术交流面への貢献

愛知大学国際中国学研究センター所長

加々美光行（かがみみつゆき）

脳科学研究とロボット技術への応用

国際電気通信基礎技術研究所脳情報研究所長

川人光男（かわとみつお）

現代陶芸による国際的活躍

陶芸家

鯉江良二（こいえりょうじ）

生物時計の分子機構解明

名古屋大学理学研究科教授

近藤孝男（こんどうたかお）

肝門部胆管がんに対する

根治的外科治療法の確立

名古屋大学医学系研究科教授

二村雄次（にむらゆうじ）

中日新聞社

第58回中日文化賞
あふれる知性

肝門部胆管がんに対する根治的外科治療法の確立

名古屋大学医学系研究科教授

二村雄次氏

世界で群を抜く成功率

消化器がんの中でも手術が難しく、以前は治療がほぼ不可能だった「肝門部胆管がん」の精密診断法と根治性、安全性の高い手術法を確立した。これまでに約三百例の手術に取り組み、根治切除率78%、五年生存率27%。この実績は、手術数、成功率ともに世界で群を抜く。

胆管は、肝臓でつくられた消化液の胆汁の通り道。肝門部は肝臓内の胆管が出てくる場所、がんができると胆汁つまり、肝障害が起きる。手術で胆管だけを取り出しても肝臓にがんが残り、根治させるためには肝臓にもメスを入れる必要がある。がんの広がりを見極め、肝不全の起きない適切な範囲を切除するのは至難の業だ。「がんの位置が一センチ違っただけで手術法が変わる」分野で、一九七〇年代までは、二年間以内に命を落とす患者がほとんどだった。

名大で講師をしていた八〇年代、肝臓全体を血液の流れ方に沿って八つの区域に分けたうえで切除する部分を決める肝臓がん手術の手法が、胆管がんにも応用できないかと着目。胆管の分布に沿った肝臓の区域分けを設定し、がんの広がり程度に応じてどこをどれだけ切除すればよいかを体系化した。

手術時間は通常十二時間前後、時には十五時間に及ぶ。「絶対には負けない」というねばり強さは、高校時代から続ける柔道で鍛えた。医師を志したきっかけも、柔道で受けた傷を薬剤師の父からもらった薬で治していたこと。現在、六段で得意技は寝技。毎週土曜日は名大柔道部師範として四時間みっちり、学生と組み合う。

世界各国の外科学会から招かれ、手術を現地で披露。腕を求めて来日する海外の患者も。「死亡率を少しでもゼロに近づける。限界まで挑戦し、手術療法を極めたい」

名古屋市出身。六十一歳。同市瑞穂区弥富町。(社会部・山本真嗣)